

タウンミーティング（市之川地区） 開催報告

- 日 時 令和元年7月13日（土） 午前10時から
- 場 所 市之川公民館 集会室
- 参加者 市之川自治会長、市之川自治会員2名、市之川自治会員代理1名
市之川カラオケ会員10名

市長、経営戦略部長、建設部長、秘書課長、シティプロモーション推進課長、
広聴係長

- 傍聴者 1人
- 次第
 - 1 開会
 - 2 挨拶（市之川自治会長）
 - 3 挨拶（市長）
 - 4 参加者自己紹介
 - 5 市の主要事業について《市提案》
 - (1) 主要事業の説明（市長）
 - 6 地域課題「市之川地区の地域活動と課題」について《地域提案》
 - (1) 地域からの提案説明（司会）
 - (2) 意見交換
 - 7 まとめ・閉会
 - (1) まとめ（市長）
 - (2) 挨拶（市之川自治会長）

○会議録

1 挨拶

【市之川自治会長】

このタウンミーティングは、自治会と市が主催となり、地域が主導して開催するもので、市内全28地区で開催されている。市長に地元へ来ていただき、市の現状や今後の市政方針の説明に加え、地域の住民と市と一緒に地域の課題について話し合うことで、私たちの声を活かし愛着の持てる地域をつくっていくことを目的としている。

今日は、現在市之川に住んでいる人たちに加え、今は別のところに住んでいるが、元は市之川の住民で、今も月に2回ほどこの地で交流を続けている人たちにも参加していただき、「市之川地区の地域活動と課題」について話し合う。皆さんの協力をいただきながら、会議を円滑に進めたい。

【市長】

本日は市之川の皆さんそしてカラオケ会の皆さんにお集まりいただき、感謝申し上げます。タウンミーティングも今年度に入って、色々な形でやっという模索をしながら、6月22日からスタートをし、11月まで続けていく。皆さんの思いを少しでも政策で対応していきたいと思う。私も四阪島育ちで住友鉱山にご縁があるというところでは皆さんとDNAは一緒なのかと思う。また先ほども話に出たが、電力会社に在籍していたので、市之川にメーターを見に来るためにこの辺りもよく歩かせていただいた。そんなようなことで、まったく知らない市之川ではなく、市之川を故郷として大切にされている皆さんの思いを大事にしながら市政の中でも反映をしていきたい。今日は忌憚のないご意見を聞かせいただき、有意義な時間になりたい。

2 市の主要事業について

(1) 主要事業の説明

【市長】（参照別紙資料（1））

3 地域課題「市之川地区の地域活動と課題」について

(1) 地域からの提案説明

【司会】（参照別紙資料（2））

【建設部長】（参照別紙資料（3））

（2）意見交換

【参加者】

以前この地区に住んでいた方が、公民館の敷地の銀杏の木のところを勝手に植え込んでいる人がいた。この間も激しい口論になった。相手に「誰も文句は言わない、お前だけが言っていることだ。」と言われた。この問題は何とかならないか。

【司会】

詳しい事情は把握できていないが、公民館の上側の土地で道路との境になっている草が生えている土地から公民館のトイレの裏側の山までが公民館の敷地ということで前任者から引き継ぎをした。この土地に以前居住されていた方が植物を植えているので、自治会長が「そこに植えてはいけない。」と注意している。

【市長】

特定ができていないということで、そこを解決してあげればよい問題ではないか。公民館の土地ということをしっかり伝えることができるかどうか。今どこに住んでいるかは把握できているのか。

【参加者】

今治だと思う。

【市長】

今、個人情報なかなか開示されないの、どこにいるのかが把握できるかどうかだと思う。それで市有地に植えるのはどうかと伝える。

【参加者】

土日の天気の良い時には、毎週とっていいくらいの頻度で来て作業をしている。

【市長】

要は自分の土地であると主張しているの、そこは違うということが言えるかどうか。

【参加者】

土日には来られているので・・・。

【市長】

昔に市之川に住んでおられた方なのか。

【参加者】

昔、市之川に住んでおられて今は出ている方だ。

【司会】

この地区は、国土調査が入っていないので、はっきりとした図面がない。私が確認した図面では、二人で所有されていて、市の土地とその方の土地であるようだ。この図面は野取の図面なので正しいかどうかはわからない。国土調査が入って確定していればそれでも言えるが、これが現実。

【市長】

国土調査は今どのあたりに入っているのか。

【建設部長】

舟形の下の中野のあたりに入っているの、まだしばらくかかる。その方が作業をされている時に名前と住所と連絡先を市で確認をして、当然野取の図面しかないの境界ははっきりわからないかもしれないが、この土地は市の公民館敷地であるというような話を相手に伝えつつ、勝手にどうこうはいけないというような話を相手とする必要がある。

【市長】

接触ができるように相手先の住所や、話をする状況を作ろう。

ここの土地についてわからなければ、こちら強く言えない。

【建設部長】

作業をしている時にその方にうまく連絡先や住所を聞き出していただければと思う。

【参加者】

境界線がはっきりしていない。共同の土地を提供しているらしい。

【市長】

市内の小学校等も、市有地ではない。貸与されている学校敷地がある。そういうようなこともあるので、この境界と所有者がわかれば全然言い方が違ってくる。そういったことでお

話、また接触していききたい。公民館と連携を図って、自治会長が悪者にならないようにやっていききたい。

【参加者】

地元ではないが、観光坑道で最近外国の人がきている。去年の落石の時に対向車と離合するのだが、離合する場所が無いというか離合の仕方がわからない。路肩が見えるように何か印をするとかなにかできないものか。

【建設部長】

路肩でガードレールがない部分のうち下が川や落ち込むような所が何箇所かあるので、走り慣れている地元の方はご存じだと思うが、観光の方等知らない方が上がってくると危険である。

ガードレールになるか、看板で「路肩注意」か「この先離合箇所あり」などというような、すれ違うことができる場所がどの辺にあるかということが、初めての人にもわかるようなものも必要だ。そのあたりは考えさせていただきたい。

【市長】

先程説明したように、道路の整備の関係で一挙にという話にはならないが、先ほどの危険箇所についてはチェックをして何らかの対応ができるようにしたい。結局、人命をしっかり守るのが我々の仕事であり、そういったことも含めて対応をしていききたい。

世界の市之川なので。マニアはホームページで市之川から西条を検索する。

マニアの人は絶対に市之川を訪ねてくるので、はっきりしたルールがなければ、観光客がどんどん入ってくる形になり、地域の皆さんとトラブルになってもいけない。今、前館長も含めいろんな思いがある方がいるので、整理するため話をしている。

【参加者】

トイレの件はどうか。

【市長】

トイレについて、教育委員会の回答を伝えたが、何ができるのかという話で、新たに下と同じようなものはあきらめていただかなければならない。どういう風にすれば使い勝手が良いかを考えなければならない。

【参加者】

浄化槽を3基くらい据えたい。

【市長】

浄化槽を入れたいが、金額がという話になってしまう。例えば小学校の校庭の辺りに、外部で市民の皆さんが活用する。また、避難場所になっているのでトイレの方を触らせてもらうケースはある。

そういった部分で、市之川で暮らしている皆さんのこと、或いは外からの観光等といったところに数とふさわしいトイレというものはどんなものかという話になってくる。

大保木公民館のトイレは水洗になったのか。

【参加者】

まだではないか。

【経営戦略部長】

確認をする。

【市長】

今日現場を見させていただいたので、その状況を持ち帰り検討したい。

【参加者】

落石が多い原因について何か考えられているか。

【建設部長】

原因については、おそらく「岩（がん）」だと思われる。元々この武丈丸野線の山側は岩できているが、風化が進んで岩に亀裂が入ったものが、ポロポロと落ちてきているのではないかとこのところまでは掘っている。

【参加者】

自分は毎日通行するので思うのだが、猪のせいではないかと思っている。夜中、道の上を走り回っている。そして猪がどんどん落として、道の脇を超えてきた猪が掘り返す。

【建設部長】

よく鼻でミミズ等を食べるために路肩のところを掘り返している。

【参加者】

道の脇に土を出していたが、先月改修をしてきていた。きれいになってよかったなと思っていたら、数日後ほとんど元に戻っていた。

【建設部長】

山側のところで切り立っているところもあるが、かなり上を猪は走っているのか。

【参加者】

道からすぐ上を走り回っている。「ここを通ったな」というのは見たらすぐわかる。そういう害獣、我々にとっては、猪が道を壊しているという現状がある。

【建設部長】

理解した。

【参加者】

猿も出ている。猿が集団で出てきたら我々が作っているものは全て盗られ、壊され、食べられている。そういうことに対する市の対策はどの程度まで考えているか。

これはこの地区だけではないと思う。

【参加者】

30匹くらいの集団で大浜の方から移動してきて、加茂の方にいっている。

【市長】

有害鳥獣は、本当に頭を悩ます問題である。剣山から鹿の侵食もあり石鎚山に入ってきつた。今そこまで被害がないのは新居浜で止めているからである。猪の関係も捕獲のところは猟友会にお願いしているが、それでも今の状況ということになる。農林水産省の有害鳥獣駆除に、「西条をモデルに何かしらいいアイデアを出してくれないか。」ということを行っている。全国の取組で功を奏しているようなものを市の農林水産部があたりながら、西条市にとってどういうやり方が良いかを研究している。解決したという事例になかなかいきあたらない。何か功を奏するようなものがあればよいが、全国同じような状況なので、何か対策を講じていかなければならない。鳥獣被害がたくさん出ているので、解決は難しいが、減少に向けて調査研究をさせていただきたい。

【参加者】

千町の人に聞くと、「もうここで物を作りたくない、作る気が無くなった。地元の人たちは皆そう言っている。」と言われた。トマトを作ったと思ったらケモノにとられるといった話はいくらかもある。そういうことに対する理解がどこまで市で進んでいるのか。それに対して例えば補助や、自分たちで罠を仕掛けたり柵を設けたりする場合、柵を設けるのならそれに対して半額を出すといったことは聞く。しかし、半額も出してするようなことではない。何万も出して幾らのものがその場所で取れるのか。狭い土地で自分たちが食べる程度の物を一生懸命作っているが、それに対して柵を設けられないというのが現状。過疎化が進み残っている人達は、本当に自分たちのわずかな力でやっている。そういう人たちが作る気が無くなることは、そこに住む意欲が無くなるということ。そういうことが全然理解されていないのではないか。丹原は鹿の被害が相当ひどいと聞く。それに対して一体どこまで本気で取り組んでいるのか。増えているのなら減らす方向にしなければならぬ。農業や、過疎で生活している人の話を聞いていただきたい。

先程、鳥獣被害について全国的な事だと言っていたが、確かにニュースでもよく聞く。であれば西条市として新しい対策を是非考えていただきたい。

【市長】

市としては、猟友会も含めてケモノをとる、捕獲するということの補助金を出す。もう一つはフェンスや柵を作ってもら。或いは罠を仕掛ける。そういったことに対しての補助金は、他の市町よりも出している。しかし、減るという形になっていないのが現状である。全域を守らなければならないとなってくるので、非常にその額は厳しく月並なところでしか出せていないというのが現状である。例えば、捕獲の時犬が傷を負う。そういったところに対する補助も出しているが、最終的な解決にはなっていない。他がやっている対策については全てやっているつもりである。

大浜の知人も「猿との戦いだ。」と言っていた。できることをやるしかなく、守ることしかできない。どこまで出せるかは総額の中の一部ということになってくる。鳥獣対策だけをすればよいというわけではなく、一定程度のお金をこれからも貼り付けていくことはできるが、税収が減っていく中でどういう風に優先順位をつけるかということも考えていかなければい

けない。理解までは進まないと思うが、工夫をしていく。

【参加者】

一つ提案があるのだが、猟師を増やす方向にしないか。とる人が増えればケモノは減る。ところが実際問題、猟師を増やすとなると、資格をとる必要がある。調べてみたのだが、資格をとっただけではいけないらしい。実際にとる時には、「保険には入れ」、「税金を払え」と言われる。狩猟する前に税金をとられるといったところを見直さないと、猟師になる人が少ないのではないか。個人の免許に対して補助金を出すことは、個人の利益に供与するというものでうまくいかないのかもしれないが、少し考え方を改めて防災のような考え方でいけばいいのではないか。災害を防ぐものだと思って、そういう人達を育てるという考え方にはなれないのか。

【市長】

県でも同じようなことがあって、松野町へ行った時の話で言うと、60歳を過ぎたら皆さん猟師になりませんかというような話でやっている自治体もある。一方で警察は銃を持たせたくないということで抑止に入る。そのあたりの攻防もある。

畏はずっと仕掛けっぱなしというわけにはいかず、1日1回は除去しなければならない。猟友会との関係など様々ながらみがあり難しい問題にはなってくる。猟友会に所属はしているけども活動していない方もいる。そういったことも含めて現状を把握して、しっかり活動してもらうことでお願いをしていくしかない。

免許の取得のことについては、本当にニーズがあるのかを把握させていただきたい。

【参加者】

ぜひ検討して欲しい。

【市長】

どういう形がいいのかということは、調査研究をするように指示をしているので、中央と連携を図りながら効果的なものについて調査をさせて欲しい。

【参加者】

3年前から猪のせいでお米が取れず猟友会にも頼んだがだめだった。なので、去年狩猟免許を取り、猟友会にも入った。4月5日から3月15日までに80キロの猪を2頭と2,30キロくらいの猪を6頭くらいとった。下島山で捕まえてジビエの本を買って自分でも勉強して捌いて食べているが、効果は上がっている。

【経営戦略部長】

去年、猪の皮を吊るした。剥いだ皮が臭く、田の中で2メートルくらいの竹に刺して吊るしたら、去年は猪が来なかった。

【市長】

そういった工夫や科学的な方法もあると思うが、アイデア出しをしていきたい。

【経営戦略部長】

様々な方法をやっていきたいと思う。

4 まとめ・閉会

【市長】

改めて本当に貴重な時間を頂き感謝申し上げます。市之川へ上がってくる道の問題は、重要である。皆さんと調整をしながら進めさせていただきたい。トイレの話も、今すぐにはならないが、今のままの状況でいいと思わず、どうしたらいいのかを考えていきたい。市民の皆さんの思いをしっかり受け止め、そのままスルーするのではなく打ち返しができると思う。

「市之川を守ろう」、「市之川大好き」ということで、守っている市民の皆さんに答えていきたい。こういった場を通じ距離感を短く縮めていきたい。

気候が大きく変化してきて、激甚災害も多発し、いつどこで起こるか分からないという状況にもなっている。「防災過保護」という言葉があるが、行政から何も言われなかったではなく、言ったが聞き取れなかったなどといったことにならないようにして欲しい。皆さんの命を守るため行政としてはできることは一生懸命やり、工夫もしていく。しかし、「自らの命は自らが守る」ということも大切である。これからも西条市、「住みたい、住み続けたい」と思ってくれる街にしていきたい。本日は感謝申し上げます。

【市之川自治会長】

本日はお忙しい中、皆さんに出席いただき、市之川地区について市長と話し合うことがで

きた。

今後も市と協力しながら、支え合いながら市之川地区を盛り上げていけたらと思う。皆さん、本日は感謝申し上げます。

(閉会)

〈タウンミーティングの様子〉

